

資料編

資料1 福島県庁文書目録（磐梯山噴火関連）

F1101 磐梯山噴火事変二関シ臨時事務分掌等決議

No.	項目
1	噴火事件臨時事務分掌
2	噴火事件臨時事務目的
3	磐梯山噴火事変臨時事務整理綱領
4	警察事務分掌
5	警察官ノ分担
6	死屍捜索埋葬手続
7	水路疎通及田地灌漑ノ方法
8	水利事務分掌
9	古市内務技師ニ質問ノ廣書
10	用水路費用概算
11	恩賜金支給方法
12	寄贈金取扱順序
13	災難者救恤所設計
14	負傷者治療取支其他取次
15	負傷者取扱手続
16	負傷患者治療場費用予算
17	罹災者救助施行順序
18	罹災者救助標準
19	小屋掛担当主任心得
20	臨時焚出米給与區別
21	耶麻郡役所臨時事務分掌
22	耶麻郡猪苗代町村十ヶ戸長役場臨時事務分掌
23	戸籍簿記入例

F1102 磐梯山噴火事変取扱二関スル書類

No.	項目
1	磐梯山噴火事変二関シ臨時事務分掌等決議
2	磐梯山噴火事変二関スル罹災者一時救助ノ件ニ付テノ訓令
3	罹災者救助調査標準及被害者等級細則并被害者財産調査類
4	罹災者救助方法及恩賜金義捐金取扱方法等ノ書類
5	漬家小屋掛調
6	北会津郡長ヨリ磐梯山破裂ノ際死亡并負傷者上申
7	猪苗代出張新田属ヨリ福島病院医出張口代ノ義ニ付電報
8	猪苗代出張新田属ヨリ別紙之通治療場其他ノ件ニ付上申
9	北会津郡長ヨリ磐梯山噴火事変者死亡及ヒ立退者ノ義ニ付上申
10	死傷者ノ義ニ付告示
11	被害者治療場直之件
12	磐梯山噴火ノ際死傷者ノ義ニ付各府県照会及ビ各府県ヨリノ回答書類
13	医学士報酬額ノ義ニ付回答
14	磐梯山噴火焚出米給与ノ件
15	恤救金配布方ノ義ニ付猪苗代出張員原田属并二齊藤属ヘ回答ノ件
16	猪苗代出張員原田属ヨリ小野寺文書課長宛罹災者救助取計額未書類
17	河沼郡長ヨリ磐梯山噴火ニ付被害者ノ義上申
18	費用支弁ノ件ニ付出張員新田属ヘ電報
19	一時救助金配当ノ義ニ付出張中ノ畑田齊藤両属ヨリノ概況報告
20	救恤金下与細則追加ノ件ニ付出張員原田齊藤両属ヘ電報
21	磐梯山噴火ノ際負傷者猪苗代町治療所ニ於テ治療シタル患者処分方ノ義上申及ビ郡医附添並会計主任郡書記同行ノ件耶麻郡所ヘ訓令
22	原田齊藤両属ノ復命書
23	原松太郎并郡医函二関スル電報
24	磐梯山噴火ノ際負傷シタル原松太郎外三名入院セシニ付病院ヘ令達
25	耶麻郡長ヨリ負傷者治療ノ義ニ付上申
26	耶麻郡長ヘ郡医巡視ノ件ニ付訓令
27	山田民弥行衛分明セサルニ付同人長山田豊次ヨリ届
28	磐梯山噴火罹災者救恤二係ル報告新聞紙ニ登載ノ件
29	磐梯山噴火罹災者永遠救助願書類
30	耶麻郡長ヨリ被害家屋移転説明願未ノ義ニ付上申
31	罹災者原松太郎施術ノ義ニ付耶麻郡長ヘ照会同郡長ヨリ回答書類
32	河沼郡役所ヨリ板橋与吉診察書進達
33	磐梯山噴火ノ際負傷シタル患者ノ病状報告

34	耶麻郡大塩村外一ヶ村戸長ヨリ磐梯山噴火ノ為メ全戸埋没ニ付跡相続ノ義上申
35	同上
36	磐梯山事変ノ際死亡シタル長沢藤三郎外三名扶助料并弔祭料給与ノ義ニ関スル書類
37	磐梯山噴火罹災者救助ニ付等差調ノ件
38	磐梯山噴火罹災者救助ノ件耶麻郡長ヨリ照会及回答書類
39	磐梯山噴火罹災者一時救助金支給ノ有無ニ付耶麻郡役所ヘ照会ニ付スル書類
40	磐梯山噴火罹災者ノ義ニ付取調向照会ニ付スル督促
41	磐梯山噴火罹災者等級調ノ義各郡ヘ督促ノ件
42	磐梯山噴火罹災者救助金額範囲拡張ノ義関スル書類
43	耶麻郡大塩村外一ヶ村戸長ヨリ磐梯山噴火ニ付全戸埋没者跡相続ノ義上申
44	耶麻郡役所ヨリ水害者移転手当費ノ義ニ付照会及回答書類
45	磐梯山噴火罹災者救助方法ノ義ニ付照会
46	磐梯山噴火罹災者救助完結ノ義ニ付耶麻郡長照会
47	磐梯山噴火罹災者中全戸埋没セシ者ノ相続ヘ救助ノ義ニ付耶麻郡長ヘ回答
48	耶麻郡大塩村外一ヶ村戸長ヨリ磐梯山噴火罹災者一家死亡跡相続ノ義上申
49	磐梯山噴火罹災者永遠救助ノ義ニ付耶麻郡長トノ往復書類
50	磐梯山噴火死亡者長沢藤三郎外三名遺族扶助料ノ件ニ付耶麻郡ヘ回答
51	磐梯山噴火負傷者原松太郎治療ノ義ニ関スル書類
52	磐梯山噴火罹災者恩賜金并義捐金救助方法
53	罹災者姓不詳サキ原籍不明ニ付耶麻郡長トノ往復書類
54	磐梯山噴火罹災者武藤吉平義捐金分配方ニ付耶麻郡長ヨリ照会ニ付回答
55	磐梯山噴火罹災者小椋末治郎ノ義ニ付安積郡長ヘ照会
56	磐梯山噴火罹災者埋葬葬及祭典ノ義ニ付耶麻郡長ヨリ照会
57	磐梯山噴火罹災者祭典ノ義ニ付耶麻郡長ヨリ上申
58	磐梯山破裂犠牲者一周年祭執行済額未ノ義耶麻郡長ヨリ上申
59	変死者長沢藤三郎外三名遺族扶助料ノ義ニ付耶麻郡長ヨリ上申
60	磐梯山噴火罹災者原松太郎飯足患与願ニ関スル書類
61	耶麻郡長ヨリ磐梯山噴火ノ際埋没死亡二係ル行旅人所持品公売代金ノ義ニ付照会及回答書類
62	磐梯山噴火義捐金ヲ以テ買入レタル公債証書売却ノ件
63	磐梯山噴火義捐金久次米銀行ヨリ引上ケノ件
64	安積郡役所ヨリ恩賜金并義捐金分配ノ義ニ付照会及回答書類
65	磐梯山地変義捐金処分ノ義ニ付議ノ件
66	磐梯山噴火罹災者恩賜金并義捐金配当高一別姓名等取調ノ義耶麻郡役所ヨリ照会及回答書類
67	磐梯山噴火罹災者救助金配当方法ノ義ニ付河沼郡長ヘ照会
68	原松太郎飯足送付方ニ付耶麻郡役所ヘ回答及千里村役場ヘ申入ノ件

F1103 磐梯山噴火事変取扱二関スル書類

No.	項目
1	磐梯山噴火ニ付耶麻河沼并会津三郡長ヨリ上申其他被害地及被害者ノ取調書類
2	岩下警部長ヨリ水害書記官磐梯山噴火ノ件報告
3	磐梯山噴火事件警部長宛電報
4	磐梯山噴火ニ付実況視察トシテ課員出張ノ件
5	磐梯山噴火ニ付宮内省ヨリ電報
6	磐梯山噴火ニ付総理大臣ヨリ知事宛電報及知事ヨリ同大臣ヘ返電
7	磐梯山噴火ノ実況ノ詳報スヘキ旨官報局ヨリ電報及同局ヘ返電
8	耶麻郡出張ノ知事ヨリ内務大臣ヘ磐梯山噴火ノ景況上申セシ旨永峯書記官ヘ電報及内務大臣秘書官ヨリ知事宛電報其他茨城県知事総理大臣秘書官等ヨリ磐梯山噴火事変二関スル件ニ付電報及返電等ノ書類
9	磐梯山噴火事件地質ニ付地質局長ヨリ知事宛電報及知事ヨリ宮内省ヘ請書ノ義電報
10	磐梯山噴火ニ付出張人名調
11	磐梯山噴火ノ為メ罹災者ヘ下賜金ノ義ニ付宮内大臣マテ電報ニテ御礼
12	総理大臣外二大臣ヨリ罹災者ヘ全員贈与ニ付知事ヨリ同大臣ヘ電報ニテ御礼
13	磐梯山噴火罹災者ヘ宮内省ヨリ恩召金御下賜ニ付耶麻郡役所ヘ令達
14	永峯書記官上京ノ件ニ付出張先知事ヨリ電報
15	知事帰庁ノ件ニ付永峯書記官ヘ電報
16	噴火并被害ノ実況略調整ノ為メ画師屋ノ件ニ付耶麻郡出張ノ知事ヨリ北会津郡長ヘ照会ノ件
17	新田属ヨリ耶麻郡出張下命ノ受書及噴火状況報告書
18	磐梯山噴火状況知事ヨリ内務大臣ヘ上申
19	磐梯山噴火ニ付磐梯山ノ状況及地質、温泉、噴火日時、噴火兆候、噴火ノ景況、遭難地ノ現況等内務大臣ヘ略図口上申書類
20	磐梯山噴火ノ景況耶麻郡猪苗代町外一ヶ村戸長ヨリ上申
21	耶麻郡長ヨリ磐梯山噴火ニ付被害ノ人口及家屋土地等ノ調書上申
22	医学士芳賀次郎外各名罹災地ヘ出張セラレタル二付大学総長ヘ書面

23	永峯書記官上京ニ付内務大臣へ上申
24	磐梯山噴火ニ付長瀬川閉塞実地調査之件ニ付内務大臣へ上申
25	磐梯山噴火事件ニ付知事ヨリ内務大臣秘書官へ書面其他関係書類
26	磐梯山噴火ノ為総理大臣ヨリ電報ニ付永峯書記官ヨリ出張先知事へ電報
27	耶麻郡出張ノ知事へ各大臣ヨリノ贈与金高ノ義ニ付今并書記官ヨリ電報
28	永峯書記官ヨリ着京ノ義電報
29	英国新聞記者外名名磐梯山噴火罹災地到着ノ件枢密院議長宛電報右ノ件出張先知事ヨリ今并書記官へ電報
30	堰及水車修繕費其他ノ諸費之義ニ付耶麻郡出張ノ知事ヨリ永峯書記官へ電報
31	知事帰庁ノ件ニ付今并書記官へ電報
32	右同件
33	永峯書記官帰県ノ義ニ付出張先知事へ電報
34	磐梯山噴火罹災者へ救恤トシテ各大臣ヨリ全員贈与ニ付出張先知事へ通知アリタキ旨永峯書記官ヨリ耶麻郡庁長へ電報
35	内務大臣へ報告ノ件ニ付知事ヨリ東園侍從へ書面
36	日本赤十字社長磐梯山噴火罹災者救護ノ義申越者耶麻郡長へ令達
37	日本赤十字社長へ医員派遣ノ義ニ付電報右件ニ付出張先知事ヨリ今并書記官へ同電報
38	磐梯山噴火ニ付被害者取扱負傷者手当及被害地調査等ノ義電報ニテ内務大臣へ上申其他新聞紙ニ掲載ノ件ニ付今并書記官へ電報
39	磐梯山噴火ニ付知事ノ演達筆記及磐梯山噴火ノ状況写真内務大臣へ送付ノ件
40	磐梯山噴火罹災者へ諭示之件郡役所戸長役場へ諭達
41	磐梯山噴火罹災者救護ノ為メ赤十字社ヨリ医員三名派遣負傷者救護ノ材料トシテ薬品寄贈ニ付領受券々札状
42	木造福島病院長耶麻郡へ出張ノ件書記官ヨリ出張先知事へ電報及返電
43	郡書記及雇二名耶麻郡罹災地へ戸籍漏取調方トシテ引上ケノ件松田測風ヨリ北会津郡役所へ照会
44	日本赤十字社長へ医員帰京ノ件ニ付知事ヨリ書面
45	磐梯山噴火ニ付災ニ罹リタル人口及被害地等小細ノ取調方ヘリーノルマン少佐プリンクルー氏ヨリ依頼并回答書類
46	知事宛同少佐ヨリ謝状
47	北会津郡外五郡へ用水ノ件ニ付達
48	新田属へ帰庁件庶務課長ヨリ書翰
49	猪苗代出張新田属ヨリ薬局并看護婦到着ノ件第一部長へ電報
50	磐梯山噴火ノ為メ出張新田属ヨリ帰県不定ノ義庶務課長へ電報
51	赤十字社医員猪苗代到着セシニ付出張先知事ヨリ今并書記官へ電報
52	横浜区医師須藤謙作罹災者治療ノ為メ出張ノ義謝状書
53	内務大臣秘書官へ部落用水堰修繕費之義ニ付報告ノ件ニ付申入書
54	朝野新聞小磐梯山裂破ニ関スル雜報掲載事件ニ付内務大臣へ上申
55	磐梯山噴火事件ニ関スル事務取扱方之義ニ付各課へ通牒書類
56	磐梯山噴火被害調査ノ義同書
57	磐梯山噴火風景要録印刷ノ件
58	安積郡ヨリ配水ニ関スル事件各戸長役場へ達セシ旨通知其他秘密顧問官旅館依頼ノ件
59	磐梯山噴火負傷者治療所移転及其他患者ニ関スル事件出張先新田属ヨリ電報
60	耶麻郡猪苗代戸長役場備付戸籍并土地台帳検査願末上申
61	水利修繕費ノ義ニ付猪苗代警察分署長へ知事ヨリ電報
62	大学院生医学士芳賀栄次郎外名ヨリ報告書
63	耶麻郡猪苗代町出張新田属ヨリ医学士手当ノ件其他戸ノ義ニ付電報
64	新田属ヨリ書類取纏置キノ件沼澤庶務課長へ照会
65	磐梯山噴火被害調査筆料支払方ノ件
66	出張中ノ新田属帰県スヘキ旨庶務課長ヨリ通知
67	磐梯山噴火罹災者救助事務取扱方ノ件
68	新田属帰県ニ付願書預置ヘキ旨耶麻郡長へ電報右事件ニ付新田属へ電報
69	檜原村漏水取調ノ義ニ付土木局長ヨリ照会及其他関係書類
70	耶麻郡長ヨリ磐梯山噴火願末ノ義ニ付上申 但シ紙取調書ナン
71	磐梯山噴火後ノ状況及取計ノ願末上申控
72	磐梯山事変ノ件ニ付県治局長ヨリ電報及返電書類
73	在京知事へ県治局長ヨリノ電報ノ件ニ付及電報ニテ通知
74	磐梯山噴火ノ為メ松原村水害ニ罹リ家屋移動状況上申其他土木局長へ右ニ関スル件通知
75	水害移転地等ノ義ニ付山部長ヨリ上申及右件官報局へ報告
76	磐梯山噴火口共進達ノ義ニ付耶麻郡長ヨリ上申
77	猪苗代漬漬長瀬川増之件電報ニテ内務大臣へ上申及其他右件ニ付耶麻郡長并森本警部ヨリ上申書類

F1504 磐梯山噴火事変取扱ニ関スル書類

No.	項 目
1	病院費其他諸費支弁方之義ニ付耶麻郡役所へ訓令
2	耶麻郡役所へ送金之義ニ付通知書類
3	磐梯山噴火被害者人名調査書類
4	磐梯山噴火罹災者原松太郎外三名入院并附料福島病院ヨリ請求ノ義ニ付回答及右ニ関スル件耶麻郡長へ照会
5	磐梯山噴火写真購入方之義ニ関スル書類
6	磐梯山噴火之際負傷セシ板橋与吉治療費用下渡之義ニ付訓令及右ニ関スル書類
7	東京五新聞社へ広告依頼ノ件
8	東京朝野新聞ヨリ広告料請求ノ件
9	耶麻郡長ヨリ松原村罹災者一時救助金之義ニ付上申
10	磐梯山噴火事変ニ付松原村水害者一時給与金所轄戸長へ交付ノ義ニ付耶麻郡長へ通達

11	磐梯山噴火之際負傷患者治療ニ用タル薬品并其運送費払渡ニ関スル書類
12	救恤場閉鎖ノ義耶麻郡長ヨリ伺及右ニ対スル回答書類
13	耶麻郡松原村水害之為メ家屋移転ノ者ニ付二瓶長三郎外二名ヨリ一時救金給与之義願出其他山形県南置賜郡結屋町金子久兵衛ヨリ磐梯山噴火之際家族死亡ニ罹リタル旨ヲ以テ救助願書類
14	磐梯山噴火罹災者治療ノ為メ使用シタル薬備請求ニ対スル支払ノ件
15	耶麻郡長ヨリ義捐金ノ内請求ノ件
16	磐梯山噴火罹災者原松太郎外三名二係ル入院料并附料請求ニ関スル書類
17	磐梯山噴火罹災者救助義捐金之内ヲ以テ公債証書購入ノ件
18	磐梯山噴火事変ニ付罹災者一時救助金給与之義ニ付会計課へ照会ノ件
19	磐梯山噴火罹災者救助金耶麻郡所ニ於テ支払タル明細取調方ノ件耶麻郡長へ照会
20	磐梯山噴火之際負傷シタル板橋与吉治療ニ関スル諸費支払ノ件
21	磐梯山噴火罹災者救助金現仕払明細帳
22	磐梯山噴火事変ニテ恩賜金并義捐金廿一年中之実収高及支払高調査
23	領収証書宛名ノ件ニ付耶麻郡長へ回答
24	耶麻郡松原村水害者二瓶鉄五郎外名手当金支給ノ件ニ関スル書類
25	磐梯山噴火罹災者へ給与金支払調ノ件会計課ヨリ回答
26	耶麻郡松原村水害罹災者相原源九郎一時救助金支給方ニ関スル書類
27	磐梯山噴火ノ為メ水害ニ罹リタル武蔵善重外四拾名手当金給与ノ件訓令其他二瓶安三外二十三名并柏木重三郎外武名ニ関スル書類
28	義捐金預ケ入ノ件
29	磐梯山噴火事変ニ付医員出張旅費其他手当金支払之義ニ関スル書類
30	磐梯山噴火罹災者救恤場諸費仕払方ニ関スル書類
31	磐梯山噴火之際埋死者竹村重兵衛外武名へ救助金支給ノ件ニ付植業課兼郡役所へ訓令其他右ニ関スル書類
32	磐梯山噴火ノ為メ埋死セシ田村郡石澤村佐々木常吉遺族者へ救助金給与之義田村郡役所へ訓令其他関係書類
33	義捐金募集公告料之義ニ付耶麻郡長ヨリ照会
34	磐梯山噴火罹災者救恤場諸費支払ノ件
35	義捐金謝状并新聞広告並支払方ニ関スル書類
36	磐梯山噴火罹災者河沼郡熊野堂村土田久多郎外六名遺族者救助金給与之義ニ付河沼郡役所へ訓令其他中川電吉外名ニ関スル書類
37	磐梯山噴火罹災者宮川コマ外九名へ救助金給与之義ニ付北会津郡役所へ訓令其他小池常吉外式名等ニ関スル書類
38	磐梯山噴火ノ為メ死亡セシ佐々木常吉遺族者へ救助金給与之義田村郡役所へ訓令其他遠藤司管野春二郎ヨリ関係書類
39	磐梯山噴火罹災者大沼郡村松小次郎五十嵐美与シ成田實太郎外三名遺族者へ救助金給与之義ニ付訓令其他本件ニ関スル書類
40	公債証書買上代金代六十圓立銀行支配人奥村新一郎請求ノ件
41	一時救助金払渡精算方ノ件
42	義捐金謝状広告料支出ノ件耶麻郡長ヨリ照会及右ニ対スル回答書類
43	磐梯山噴火義捐者謝状広告料等取扱順序之義ニ付耶麻郡長ヨリ照会及回答書類
44	磐梯山噴火罹災者宮川コマ外九名へ救助金給与之義ニ付北会津郡役所へ訓令及右ノ件ニ関スル書類、罹災者之中高木留四郎ヨリ給与金返納ノ件
45	救助金ヨリ支払調、収入及下附高調、義捐金収入調、耶麻郡長ヨリノ書類
46	磐梯山噴火罹災者原松太郎薬備支出之義ニ関スル書類
47	磐梯山噴火罹災者原松太郎薬備耶麻郡長ヨリ請求
48	義捐金預入レノ件
49	耶麻郡長ヨリ補助金下賜人名重複取消ノ義上申郡長ヨリ罹災者小野寺利吉へ救助金給与ノ件上申、耶麻郡猪苗代町西門寺真田教ヨリ磐梯山噴火罹災者救助等級并金額ノ件認可、磐梯山噴火ノ為メ負傷セシ塚広三郎義ニ付耶麻郡役所へ照会等ノ書類
50	磐梯山噴火ノ為メ松原村水害罹災者柏谷喜三郎外三人家作手当願其他関係書類
51	磐梯山噴火ノ為メ死傷セシ小学校教員及生徒へ義捐金分配ニ関スル書類
52	磐梯山噴火罹災者救恤ノ為メ耶麻郡喜多町ニ於テ募集セシ金罹災者へ配付方ニ関スル書類
53	磐梯山噴火罹災者遺族三坂与右工門外五人へ救助金給与之義ニ付耶麻郡長へ訓令
54	磐梯山噴火罹災者ノ中全戸埋死タル跡相続人へ救助金下賜ノ件耶麻郡役所へ指令
55	磐梯山噴火罹災者五十嵐茂三郎外二名へ救助金下賜ノ件其他右ニ関スル書類
56	義捐金謝状広告料返納ノ件
57	磐梯山噴火罹災者救助謝状広告ニ関シ県治局長及耶麻郡長ト往復書類
58	磐梯山噴火罹災者遺族新潟県北蒲原郡高橋貞吉外三名へ救助金給与ノ件其他右ニ関スル書類
59	義捐金利付預ケノ件
60	磐梯山噴火罹災者埋葬管費及本埋葬地へ建設基礎ノ請求書
61	耶麻郡猪苗代町西門寺真田教ヨリ磐梯山噴火罹災者屍引取其他祭典費ニ関スル書類及埋葬管費下附關ニ関スル耶麻郡長ヨリ書類
62	磐梯山噴火罹災者耶麻郡松原村横田幸治ノ跡相続者無相違旨耶麻郡長ヨリ上申ニヨリ救助金給与ノ件指令及同郡磐梯村渡邊房吉外拾四人埋死者跡相続人ナルヲ以テ義捐金下賜願其他渡部武八外拾式人ノ罹災者ヨリ救助金下賜願ニ関スル書類
63	耶麻郡長ヨリ磐梯山噴火罹災者祭典費下渡之義ニ付上申
64	新潟県ヨリ磐梯山噴火罹災者伊藤弥平治へ給与セシ救助金之領収証送付ノ券
65	広告料及郵便為替等下渡之義耶麻郡長ヨリ上申ニ付指令
66	安積郡小坂ヨリヨリ親族小塚新吉外武名磐梯山噴火ノ為メ死亡セシニ付救助金下賜願其他同人へ救助金給与之義ニ付安積郡役所へ訓令等書類
67	義捐金収入調書進達之義ニ付耶麻郡長ヨリ上申
68	北会津郡若松町山内千代八へ救助金給与ノ件ニ付北会津郡役所へ訓令其他関係書類
69	磐梯山噴火之際埋死セシ山田民弥遺族者へ救助金給与之義ニ付北会津郡役所へ訓令其他本件ニ関スル書類
70	磐梯山噴火罹災者遺留品公売代及遺留金返納ノ義耶麻郡長ヨリ上申
71	耶麻郡役所へ救助金支払明細調査回報ノ件照会同郡ヨリ回答
72	磐梯山事変義捐金収支高対照会計課へ照会同課ヨリ回答
73	磐梯山噴火ノ際死亡シタル跡相続人矢部栄四郎へ救助金給与ノ件耶麻郡長ヨリ上申ニ付指令

F1512 義捐金書類

No.	項 目
1	北会津郡若松奥田高嶺一郎外巻名ヨリ義捐金送付ノ件
2	大坂府茨田交野口郡役所ヨリ同上
3	安積郡駒屋尋常小学校職員生徒ヨリ同上
4	公論新報社ヨリ同上
5	紀陽新聞社ヨリ同上
6	静岡県瀧口寿雄三十名ヨリ同上
7	青森県安定寺住職水原意教ヨリ同上
8	東京府明教社主岸弘海ヨリ同上
9	奈良県教口寺住職守田皓ヨリ同上
10	福岡日々新聞社ヨリ同上
11	時事新報社ヨリ同上
12	安積郡山崎齋藤文吾ヨリ同上
13	三重県集徳寺住職栗田利広ヨリ同上
14	長野県飯田美以美以会信者中ヨリ同上
15	東京学農社ヨリ同上
16	福岡県玄福寺住職福井寂門ヨリ同上
17	北海道諸橋源太郎ヨリ同上
18	三重県見性寺住職金山春弁外二十六人ヨリ同上
19	福島口口裁判所長ヨリ同上
20	愛知県金道寺住職藤井徳城ヨリ同上
21	奈良野養徳新聞社ヨリ同上
22	静岡県蒲川村戸長ヨリ同上
23	茨城県口牛寺福重信榮外巻名ヨリ同上
24	東京日報社ヨリ同上
25	東京府奈良繁ヨリ同上
26	大沼郡役所員ヨリ同上
27	東京公臨社ヨリ同上
28	滋賀県阿部重内外式十六人ヨリ同上
29	北海道伊与田為儀外巻人ヨリ同上
30	兵庫県西本月次郎ヨリ同上
31	北会津黒河信太郎ヨリ同上

資料2 磐梯山爆発罹災者に対する聴取書

※本表は『磐梯山噴火百周年記念誌』所収の口語訳である。原史料は福島県庁文書 F1503-76。解読に際しては原文に即して訳したが、会話は「 」とし方言もいかした。

1	見 称	耶麻郡猪苗代町(旧磐瀬村)		
聴取日時	明治21年10月16日			
人名	五十嵐庄作	五十嵐介多郎	五十嵐弥七	
噴火にあった場所	居宅より7町程行き猪苗代の北の端の家の近くまで行ったところ	猪苗代町の米蔵屋	家より2丁程の田	
問1	7月12日頃より15日までの気候、例年との違い、天気	気候は例年と変わらない。寒暖は7月12日は80度、13日は74度、14日は80度位。天気は少々薄曇は出たが、格別雨が降るまでもない。13日昼過1時頃に雨が少々降った。		
問2	噴火前の山鳴り・地震	ない		
問3	噴火の前兆	ない		
問4	噴火時のようす	時計は持たないので不確かだが、朝7時45分の頃と思う。ドウドウとひどい音がして地震が始まり、続いて振動した。猪苗代町へ出るつもりで居宅から7丁程行き、猪苗代町の北の端人家近傍まで行くと、3度目の地震にあい、家が崩れるだろうと思って立って見ていた。	猪苗代町の米蔵屋にいて地震があったが格別なことはないと思家の中にいた。二つ目の地震が余り強いので外へ出てみると、三つ目の大きな地震がするや否やドドンと大砲を打ったような音がして、真暗な煙が磐梯山より音と同時に登り出て、山の中腹より火が所々出て、ドンドンガラガラ音がした。「これは大変じゃ磐梯山(大磐梯のこと)が崩れる」と思い、子供が学校に行っているの、心配して走って三丁程行くと、一面暗黒になり、一寸先も見えなくなり、仕方がないのでその場に縮んでいた。	家より2丁程北の田へ仕事に出ていたが、三つ目の地震が余り強いので、こういう時は火事などが出るものと思、家に帰ろうと思走って途中まで行くと、ドドンと大きな音がして、磐梯山の上より真暗の煙が出て、ドンドンガラガラ音がして、一面暗黒となった。終に軒端まできて、漸々内へ入り縮んでいたが、凡そ1時間も経つと、漸々薄明るくなったので外へ出てみた。
問5	音のした時間、また暗黒になった時間	時計を持たないので判然としないが、8時少し過ぎにドドンと大きな音がしたので磐梯山をみると真直ぐ柱の様に真黒の煙が凡そ大磐梯山程上った。また一度ドドンと音がすると、その黒煙が東の方へ靡くと思ううち、忽ち真黒になり磐梯山の中腹と赤埴山より火がポツポツとでて暗黒になった。何も察知できないまま、真黒は凡そ1時間程で、10時過ぎに段々明るくなった。		
問6	明るくなってからのようす	ゴウゴウという音は3・4日ほどした。その中で時々崩れる音が強い音で、ガラガラという音もあったが、日時は覚えていない。		
問7	泥土の噴出・降灰	ドンと音がすると間もなく枇杷沢を黒煙と同時に火が交じり押し出した。その有様は大砲を打った煙のモウモウとくるようなものだった。又灰は暗くなる少し前、砂が降ると思ったが、泥のかたまりがポツポツしたものがバラバラと降り、灰も暗くなると同時に降り、明るくなるときは降らなかったように思う。その日は終日少々は降ったものとみえ、外に出ている時は着物が鼠色になる位だった。		
問8	押し出した泥土・初めの降灰はあついものだったか	逃げてくるとき降った灰は熱いという程ではなく、暖かだった。押し出した泥土は明るくなってなっていくが別段暖かいとは思わなかった。		
問9	暗黒中の風	少々北風だったと思うが、格別強い風ではない。		
問10	噴火後の地震	8月12日午前11時過ぎ、大きく揺れた。		

2 渋谷		猪苗代町(旧磐瀬村)
聴取日時		明治 21 年 10 月 17 日
人名		渋谷 穴沢清吉 本多熊吉 長谷川源作
噴火にあった場所		自宅か
問1	7 月 12 日頃より 15 日までの気候、例年との違い	寒暖計を養蚕のため置くが、家々では少々ずつ違いがある。12 日頃より 14、15 頃までは日々のことは覚えがないが、高下は 2 度より 4 度まで位と思う。格別不順とも思わないが、昨年よりは 2、3 度も暖かのように思う。天気は 11、12 日は雨降り、13 日は雲が少々出ていたが雨はなく、14、15 日は晴天だった。
問2	噴火前の山鳴り・地震	山の鳴る音はわからなかったが、噴火 10 日程に大分大きい地震があった。その他は噴火まで覚えがない。
問3	噴火の前兆	私共は気がつかなかったが、本田辰吉が、本年旧正月下旬小磐梯山の少々手前のグミ沢へ兎追に行ったら雪がぬかって歩行もできなかったという。その辺は例年は雪がかたまり、固くて歩行には差支ない所で、噴火のためその時分から暖かであったと話していた。
問4	噴火時のようす	15 日の朝は極晴天で散雲一つなかった。清吉の時計は 20 分程進んでいたが 8 時を打つと間もなく西の方よりドウドウと音がして地震が揺れ始め、暫く揺れて少し遅揺れになり、又烈しく音がして先の地震より一層強く揺れだしたので、家内の者は外へ走り出した。30 間程行くと磐梯山の上より大砲を打った様な音がドンドンとするや否や、真暗の煙が真直に凡そ磐梯山に打上ると、直ちに小磐梯山が抜けたと思い逃げ出した。その時はバリバリ音がして、黒煙のなかより火がチカチカに見え何か白いものが黒煙の中を登り下りした。熊吉・源作は、「磐梯山が抜けた」と声を掛け、村の東の樋ノ口の方に向かって逃げ出したが、凡そ 2 丁程行くと真暗になったので仕方なくすくんでいた。また川向こうの白木城に向かって逃げた者は 1 丁程逃げたが、強い嵐で吹き倒された、起きては倒された。真暗のときは砂あるいは小石がサアサアと音がして降った。すくんでいるうち耳あるいは鼻の穴、口等にその砂が入り、生気もなくなるようだった。真暗の時間は確かではないが 1 時間余だった。
問5	渋谷の裏山への泥土の押出	暗くて見えなかった
問6	砂・灰の降った時間	暗くなると砂が降り出し、1 時間も経つと大雷が 6、7 つ鳴って少々明るくなり、大粒の暑い雨が降って明るくなった。その時は砂は降り止み、細かな鼠色の灰が降った。その時間は都合 3 時間程であった。
問7	明るくなった時間	確かではないが 10 時にはなっていたらう。
問8	明るくなってからのようす	山は一面真白になり二抱えもある様な木は根から吹き倒れ、木などは一本も見えなかった。また別段揺れることはなかったが、ゴウゴウという音が時々強くなることもあった。又噴火口の近傍の土が崩れて落ちるときは地震のように地響もあったが、日時は覚えがない。8 月になって一度ひどい音がして崩れたことがあった。
問9	噴火後の地震	8 月 12 日午前 11 時頃大分大きいのがあった。その他は覚えがない。
問 10	噴火後 4、5 日の民情	噴火後 10 日余も又噴火することと思ひ、村の大半は他へ移り、戸主あるいは若い者のみ残っていた。又旧 7 月 7 日に枇杷沢が抜けて泥土を押し流した。長瀬川の止まった水が一時に抜けてくることを患って、二か月ほどは何もしないでいた。

3 名家		猪苗代町(旧若宮村)
聴取日時		明治 21 年 10 月 16 日
人名		山田兵吾 遠藤辰三郎
噴火にあった場所		自宅か
問1	7月10日頃より15日までの気候、例年との違い、天気	日々のことはわからないが、80度から85度位で例年と変わりがない(茶の間に寒暖計を置く)。又雨は降ったがその日は覚えがない。
問2	磐梯山の上へ雲のかかった時のようす	いつも川上の上手の方より南の方へ靡いて出ると雨か風かになるが、格別変わったことはなかった。
問3	噴火前の山鳴・地震	ない
問4	噴火の前兆	何も不思議なことはなかった。
問5	噴火時のようす	15日朝は極晴天で、時計は持たないので確かではないが何でも8時頃、地震がユサユサと揺れ、少々遅揺れになり、又烈しく揺れだした。その時大砲を遠くで打つ様にドンと地へ響いて立っていることのできない位ひどい地震がした。皆外へ出て磐梯山の方を見ると、大磐梯の北の方より黒煙がモウコと真直に出たので、磐梯山が崩れると思い、家内の者はすぐ逃げたが、私共は火を埋めて馬を出すや否や、ドゥーンと音がしゴウゴウという音がした。その時分には馬を出すとともに東の方へ2丁程逃げて道端に倒れた。その時には黒煙と一緒に砂のような灰が降り、風が吹いて黒煙を巻き一寸先も見えず、殊に灰でむせそうになって倒れた。凡そ14、5分間もたつと明るくなったので、すぐ家に帰りかけて14、5間も走ると雷が鳴り出して雨が降り、5分間程たつと元の晴天になった。
問6	暗くなった時の風、砂の降った時間	一抱もある木の下にいたが、その木がユサユサと動く位に吹いた。又砂灰が降ったのは15分間程であった。
問7	明るくなって家に帰った時間	朝外に出しておいた藪に灰が降りかかったので、片付け等して気が移っていたため時間はよく覚えがない。
問8	降砂・灰の厚さ	凡そ2寸程であった。
問9	小磐梯が抜けた認識、流れ出した土のようす	家へ帰るとすぐ村西の土が押し出した所へ行ってみた時には小磐梯山が抜けたと思った。又その土は田の土みたいにドベドベであった。なかに大きな木等が一同に流れて来ていて、磐梯山が抜けて長瀬川へ押し出したものと思った。
問10	その時の山のようす、鳴動	山は一面真白になっていたので、焼けたものと思い、又崩れてくると思って、その日の午後4時頃より裏の山あるいは酸川野(名家より6丁東へ隔つ)へ逃げていた。ゴウーゴウーと音がして時々ドウドウという音がした。
問11	噴火後の地震、例年と変わったこと	地震はなかった。また別段噴火で変わったことはないが、長瀬川が一面土で埋もれていた。
問12	噴火後の1か月間の人気	10日程は北磐梯(櫛ヶ峰の北方を云う)が崩れ、あるいは長瀬川の止まった水が一時に泥土と共に烈しく流れ来ると村は紛れもなく流れてしまうと思い、山の央或いは酸川野等へ家財を移した。壮年の男は村の西へ堤防を築き、長瀬川の溢れ出てくるのを防ぐにかかって何もほかのことはできなかった。

4 長坂		猪苗代町(旧磐瀬村)
聴取日時		明治 21 年 10 月 17 日
人名		渡部房平 磯谷栄作 渡部清吉
噴火にあった場所		自宅か
問1	7月10日頃より15日までの気候、例年との違い、天気	格別変わったことはないが、本年は蚊が例年より多く、少し暖かなように思う。寒暖計は凡そ75度より80度位である。11日は雨降り、12日は少々雨降り、13日は朝山ノ手へ少し降り掛け、又昼過ぎに少々降った。14日は晴天、15日も朝は晴天だった。
問2	雨の降った時、雲のようす	見定めないが、かわったことはない。

問3	噴火前の山鳴・地震	山鳴りというのがあるそうだが私たちは気がつかなかった。地震は10日前に大分大きいのが揺れた。その後も小さいのがあったが何分養蚕中のことで日時はよくわからない。何でも青田に地震は善くないと地押検査で寄合っていた村の者と話した。
問4	噴火の前兆	何も変わったことはなかった。
問5	噴火時のようす	<p>房吉・清吉は繭むしりをしていた。清吉は飯が出来たので食事に掛かると、ドウドウと云う音がして地震が揺りだし、少しずつ間を置いて三度揺れたが、時間はよくわからない。何でも7時余程過ぎであったか。三つ目の地震の時食事中の処、ズドンズドンと音がして、椀を打ち捨て外へ出ると真黒の煙がドンドンと音をして裏の山(櫛ヶ峰)をモウモウと下るので、裏の山が崩れることと思ひ、家に火を起こし置いたので、火事になってはいけないと思ひ、家に走り込み二か所の火を消して外へ走り出したが、門口で真黒になり、門口を出ると直ぐ風と土に押し倒されてしまった。房平も三つめの大きい地震が揺れると同時に、ドドンと音がしたので東の方へ居宅から1丁半程も逃げたが、真黒の煙が裏の山へ半分以上掛りその黒煙の中より雷光の如き火出て音は海の波の音のようで、ドドウゴゴウと音がし、何でも裏の山が崩れることと思つた。その中真暗になりバラバラと土が降り、風は強く立って居ることも出来ないの、田の傍らにうづくまってしまった。それから上より波の様になって泥土が来て体にかぶり、一時は覚えがない位だったが、泥土が薄いこともあり、これではいけないと思つて跳ね起きると又土が押し来て打ち倒された。そのとき体の胸元へ一だきもある木が流れてきたので、その木に取付いて居ると少々明るくなりかけたので、向こうの方(西の方)を見ると、又一抱もある木が流れて来たので、その木に取付、漸く煙に這い上がったが、そのときは余程明るくなったが、雨が少々降った様に思ふ。また何分土が体に一ぱい掛かっていたので、直ちに家に帰つた。</p> <p>清吉は何分そのときは怖いので確かには覚えていないが、暗くなって又少々明るくなりかけて又真暗になり、凡20分位真暗だった。明るくなりかけたとき雨がたくさん降つた。その時土に流れて出た方へ走り付いて見ると、私の新宅の子供二人が流れて来た木の上に乗っていたので、宅へ連れ帰つた。</p>
問6	明るくなった時間	房平・清吉はその当時は狼狽していたので、時間は少しもわからない。
問7	流れ出た泥土の熱さ	熱くはなかった。煙が上がったときは寒かった。
問8	その時分の山のようす	房平：山は真白くなっていたので深く考えもしなかったが、何でも山がむけて落ちたと思つた。清吉：山が真白になっていたの、上皮をぶっとばしたものと思ひ、又泥土の流れてきたのは入の方の川端の山が崩れて来たものとわかつていた。
問9	心が落ち着いてたのは何時頃か	12時頃には心落ち着き死体の搜索にかかった。
問10	12時頃までは何をしていたか	格別どうゆう考えもなく、明るくなると村中に人がいないので、あちらこちらと走り廻り、がなって(どなって)歩いてた。
問11	何山が噴火したか認知していたか	上に逃げたものが帰つて話もあり、小磐梯山が入の方に抜けたということを承知していた。
問12	明るくなってからの山の鳴動・降灰	山の鳴る音或はドウドウという音は一向にしない。又灰は所によって違うが、村中平均2寸位。明るくなりかけて雨が降り、その後灰は降らない。
問13	落ち着いた後のようす	只々他事することはなく、死体搜索と負傷者手当に日を暮らしていた。
問14	村内の死亡・負傷者の数の判明日時	傷人は当日わかつたが、死者の数は3日ばかりたつてわかつた。
問15	噴火後3、4日後のようす	15日傷人を集めていると午後5時頃、猪苗代外十ヶ村戸長役場用係五十嵐藤次及び警官一名、医師原玄知が来た。猪苗代町へ、当日負傷者5名、翌16日8名、18日4名送つた。詳細はわからないが、食物飲水等は猪苗代町より送つてもらつた。16、17、18日は死体探しのみをした。
問16	噴火後の山崩・鳴動	私方にては只少々の白煙が見えるのみで、鳴動等は気づかず、時々風のもようドウドウドウという音が聞こえるのみだった。

5 白木城		猪苗代町(旧蚕養村)
聴取日時		明治 21 年 10 月 19 日
人名		古川岩松 武藤喜重 古川作次
噴火にあった場所		
問1	7月12日頃より15日までの気候、例年との違い、天気	寒暖計は75度より80度の間で、日々の上下は3~4度位。例年と格別寒暖の違いや不順と思ったことはない。噴火後暑くなったのは噴火のため青葉がなくなったためと思う。天気は11日、12日は雨降り、12日午後3時過ぎより晴れ、13日は雲出て午後2時過ぎ少々雨が降り、14日晴天、15日は極晴天で薄雲もなかった。
問2	噴火前の山鳴り・地震	7月10日夜少々地震があったが、山鳴はない。
問3	噴火の前兆	村では鳥鳴きが悪いと言っていた。殊に15日朝は鳥が大変鳴いた。
問4	噴火時のようす	15日朝は極々晴天であった。午前7時30、40分頃と思うが、北の方よりドウドウと音がすると地震が揺れだし、順に烈しくなり、凡そ10分間程も揺れると、ドンドン音がした。小磐梯(この部落では小磐梯を中磐梯山と称す)を見ると、真黒の煙が凡そ15、6間も柱の様に上ると、小磐梯山が抜けたと騒ぎ出した。 喜重: 居宅より東へ6丁程隔てた田へ仕事に行っていたが、宅に年寄り子供を残してきたので、心配して家に帰ろうと思い3丁程走って行くと、もう黒煙にまかれ嵐は強くて家の方に向かって行くことができないので、また黒煙の中を漸く2丁程東へ逃げたが、草野に吹き倒され、14、5間覚えなしに吹きころがされ、堀の中にぶち落とされた。そのまま堀の畔の西側に縮んでいたが、その黒煙がくると同時に、ドンドンワリ音がして、熱い砂がバラバラと降り、単物の上よりかかって体が熱くて耐え兼ねる位であった。凡そ1時間ほど経つと大雷がして、熱い雨がたくさん降って追々明るくなった。 岩松: ドンと音にした時は家の前にいたが、家の中に火を消しに入ると再び外に出ると、家の前に子供が一人いたので、それを抱きかかえて東に2丁程逃げた。そのまま巻上げられたか、吹飛ばされたか覚えはなく、60間程東へ落とされ、それより抱えていた子供を落としたので、10間ばかり捜しに行くと捜し当て、その場で子供の口に入った土等を出して縮んでいた。 作次: 居宅より3丁程西の田へ草採りに行っていたが、ドンドンと音がして真黒な煙がきたので、3丁程東へ逃げたが、畑の中に倒れてしまった。
問5	黒煙の下るときの模様及び明るくなったのは何時頃か	山(櫛ヶ峰)をバリバリと音がして石が先きだちモウモウと黒煙が巻いて落ちてきたが、それと同時に、ひどい嵐が来て色々吹き倒され。従ってその煙の落ちてくるときは大砲の玉の来る様に目にみるとき忽ち真黒になり、その真黒の中には火が見えたという者もあったが、私共は黒煙の中には火は見えなかった。また明るくなったときは10時頃と覚えているが、その時分にはもう風も何もなかった。
問6	他部落では地震が三度にあったが、白木城はなぜ一度か	私共は田に入っていたので、その初めは気がつかなかったものと思う。
問7	泥土の噴出・降灰のようす	泥土の噴出はなかった。灰は初めは霧のようなものが降り、追々薄くなり、明るくなってからは、鼠色の乾いた灰が少々づつ12時頃までは降った。積もった灰は5、6寸あった。
問8	明るくなってからの山の鳴動	動きはないが、ドウドウという音はひどい音が二日ほどした。その後は風の模様で時々ゴウゴウという音が20日ほどした。
問9	噴火後の地震	8月12日午前11時過ぎに揺れたが、その他は覚えがない。
問10	例年と変わったこと	別段変わったことはないが、暑気は余程強くなったように思う。これは青葉がなくなったので暑いと思う。

問11	噴火後1か月の民情	大磐梯山が破裂する等の噂があり、それが第一の患いである。又長瀬川の止まった水が一時に抜けてくる事を患い、家財等は同村の内字小水沢等へ預け、只家の崩れた跡を片付ける位のことで、日々憂いて人気も落ち着かずわんやわんやして暮らしていた。9月19日に枇杷沢が抜けて泥土を押し出し、耕地3丁歩余が埋没した。雨が降ると又枇杷沢が抜けるとか、入の水(長瀬川)が抜けるなどと憂えて何もせず、只命を失わないようにとのみ言って暮らしていた。
-----	-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 伯父ヶ倉		猪苗代町(旧三郷村)
聴取日時		明治21年10月18日
人名		五十嵐柁次 阿部昌吉 遠藤勝蔵
噴火にあった場所		自宅か
問1	7月12日頃より14日までの気候、例年との違い、天気	寒暖計76度位で日々のことはよくわからない。例年と変わっていたとは思わない。又天気は12日少々雨降り、13日は午後少々雨降り、14日曇り天気だったと思うが、何分噴火前のことは忘れてしまい確とは覚えがない。
問2	噴火前の山鳴・地震	少しも覚えがない。
問3	噴火の前兆	兎が13、4日より東吾妻山の方へ逃げたなどというが、私共は何も不思議と思う事はない。
問4	噴火時のようす	15日朝は晴天で散り雲一つなかった。8時少々前、北の方よりゴウゴウと音がして来ると、地震が揺れだし、一度ユウユウサと揺れ、少々遅揺れになったと思うと、又ゴーとひどい音がして一層烈しい地震がきた。揺れる間は凡そ5分くらいと思う。3度目のひどい地震がするや否や、ズドンズドン音がし、磐梯山の頂上より真直ぐ柱のような黒煙が凡そ10間位も上ったと思うと、又ドンドンと音がして黒煙が広がった。私たちはその音がして黒煙が上がってから小磐梯が抜けたと思い、東の方へ居宅より2丁程逃げたが、後より物がドウと打ちかかったようで、真黒の煙が来て倒れてしまった。凡そ1時間位真暗だったが、明るくなる少々前から雷が鳴り出して砂交じりの雨が降り出し、追々明るくなった。黒煙と同時に砂交じりの灰が来た。
問5	明るくなって家へ帰った時間	10時少々過ぎと思う。
問6	降灰の厚さと時間	はじめは砂交じり、追々細かな灰になり、3寸程積った。
問7	小磐梯山が抜けた認識	承知していた。
問8	噴火後の鳴動・地震	時々風の模様でゴウゴウという音がした。また日時はわからないが、凡そ四度程はドウドウという音がし、山の崩れる音と思った。又地震は二度程あったように思うが日時は覚えがない。
問9	噴火の変事	別段変わったことはないが、不思議と色々な花が咲いた。噴火後暖かになったため、咲いたと噂している。
問10	噴火後の暑気	例年より特に暑いと思う。
問11	噴火後1か月のようす	大磐梯山が崩れると思い、山の根やそれぞれの心思いの所へ家財等を移し逃げていた。長瀬川も止まったため、水が溜まって抜けて来るだろうと思い、そのことの予防のみをし、仕事等をする者はなく、只々憂っていた。

7 大島原		北塩原村(旧桧原村)
聴取日時		明治21年10月19日
人名		長尾岩蔵
噴火にあった場所		大島原開墾地(磐梯山の東北に当り2里を隔てて直面の所)
問1	7月10日頃より14日までの気候、例年との違い、天気	気候は例年と異なる事はない。天気は2、3日前に雨が降ったが、よく覚えていない。

問2	雲の出方等の異変	ない。
問3	噴火前の山鳴・地震	山鳴りはわからないが、11日午後2時頃に家がミイシミシというほどの地震があった。
問4	その前後の地震	大島原は地震のない所で、町で地震が少々あっても、大島原ではないことが度々あった。
問5	噴火の前兆	ホトギスが引き切れず鳴いていたが、10日ほど前から鳴かなかった。兎がいつもはなかなか見かけない6、7月頃、川端や河原へ出てウロウロしていた。3月頃に磐梯山の雪が例年と違いめっきりと消え出したのが不思議とと思っていた。抜ける前夜に馬が嘶いて暴れ馬屋から出て家の畔で鳴いて暴れたので、すぐ起きて馬屋に入れた。いつもはそういうことはないので不思議に思っていたが、格別心にかげずにいた。
問6	噴火時のようす	晴天で何も変わったことはなかったが、8時頃雷のような音が、ゴウロゴウロして地震が始まり、煙草を2、3吹く吸う位たつと、磐梯山、白峯山、離森山の間へ渦が巻いて黒煙が上がった。その煙が出たときは雷かと疑っていたが、ドウンドウンと音がして黒煙が三段にツツツと上へ昇った。それからガウガウと音がして奥羽平へ土石を押し出すのが、黒煙と同時に火一面になって押し出してきた。「これはなじょう(どんなに)になりますか」と思い家へ逃げ帰り、火など消して外へ逃げ出した。その時には最早秋元原は押し出した土石で山のようになっていたが、自分はそのまま逃げた。
問7	その後何時帰ったか	16日に帰って、小家のものを片付けた。
問8	16日変化はなかったか	何も変わったことはない。只土石が押し川を止めて水が迂回していた。
問9	16日以降はどうか	16日に馬と牛を遣わし、家財を取り片付けて、その後は行っていないのでわからない。

※聴取場所が猪苗代町のためここに記載されている。

8	雄子沢	福島県耶麻郡北塩原村(旧塩原村)
聴取日時		明治21年10月23日
人名		小椋倉太郎
噴火にあった場所		大倉川に魚釣りに泊りがけの帰り道
問1	7月10日より14日までの気候、例年との違い	磐梯山下ノ湯に7月13日までいたが変わったことはなかった。11日大雨、12日朝まで降り続き、13日からは引続き天気であった。風はない。
問2	噴火の前兆	ない
問3	14日までの地震	昨年からのいるが、地震は覚えがない。全体少々の地震は山ではわからない。
問4	噴火前の振動と破裂の有様	7月13日大倉川へ魚釣りに泊りがけで出かけ、15日には湯に帰ろうと思い、大島原まで行くと、朝8時頃、東南の方にて、ドウドウという音がして地響きをした。これは地震だろうと思って、道を急いだ。凡そ1町程も行くと、ドウンドウンという音がして、黒煙がシラブ山に当たり、諷山(七曲の東、川上の向い)の上へ上がった。その時は出火と思ったが、大島原開墾の者が「今磐梯山が抜けてこの所へ来る」という。「そんなことがあるものか」と言い、私は出火とのみと思っているので構わずに行くと、開墾小家7、8間手前で抜けに出会った。いよいよ来ると思ったので小野川へ向かって逃げたが、ドンと音がしてから17、8丁も行ったら、真黒の煙が渦を巻いてきて、開墾小家より1町程南に止まった。抜け初めにはひどい勢いであったが、止まる時は黒煙の先へ土が押しつけて、その勢いが弱くなったので、その止まったのを見てから小野川に行く山に登って逃げた。
問5	黒煙が押しつけてくる時のようす	砂・灰はこないが、ドウドウと音がし、ボンボンと大砲のような音がして、真黒の煙が押しつけてきた

問6	逃げたあとのようす	小野川へ午後2時頃行き、夜は同所へ泊り、翌々日は噴き出した所を渡り、大塩村の字原小屋へ行って泊った。
問7	その後雄子沢へは何日にいったか。また押し出した土石は何程か	足を傷め医者で治療を受けたため、6、7日経って漸々元雄子沢と思う所へ行って見たが何だかわからず空しく帰った。土石で10丈位居家が埋まったものと思うが、どこが雄子沢か全くわからず、その後は行っていない。
問8	噴火後変わったと思うこと	ない
問9	噴火後、地震・鳴動、山のようす	地震は覚えがない、原小屋にいるときは山の鳴る音等は聞こえないが、長峰へ行くと、ドウという音がする。噴火後6、7日経って雄子沢へ行った時、小磐梯山が抜けてなくなり、櫛ヶ峯等は焼灰が掛かって白くなった。ほかに変わったことはない。
問10	16日の噴火地歩行のようす	熱くはなかった。土石が押し松原川を止めたので、所々少々づつ抜かる所があった。

9	桧原本村・小野川	福島県耶麻郡北塩原村(旧桧原村)
聴取日時		明治21年7月
人名		本村 斎藤豊吉・高橋庄作、小野川 小椋鹿三郎・小椋米三
噴火にあった場所		桧原本村:猫小家原 小野川:自宅
問1	7月頃の気候	寒暖計を持って試した訳ではないが、昨年より少々暖かのように思う。
問2	7月10日より14日までの気候	旧2日、3日雨降り、4日曇天、5日、6日少々曇り日であった。
問3	風の模様	四日には西風が強く吹いたが、そのほか格別の風が吹くことはなかった。
問4	噴火の前兆	いつもは桧原川の魚が浮かぶ時分なのに浮かばなかったのどうしたものかと噂していた。噴火のため2、3日前より地が揺れたために浮かばなかったと思う。
問5	噴火前の振動から噴火した土石のようす	15日は極晴天で、午前8時頃、ドウドウと音がして地震が揺れ出した。一度揺れて少し揺り止み、また揺り出して少々遅揺れになり、更に一層強い地震が揺りだすや否や、ズドンズドンという音がした。その地震の揺れた間は煙草2、3服吸う間(凡15秒間)と思う。豊吉は、家内の者及び同村の者9名で、同村字猫小家原(本村より30丁程南)で畑仕事に行っていた。二瓶茂吉が三度目の地震がするや否や、「磐梯山が抜けるから逃げろ」とがなって[どなって]きた(この時は、ドンという前で、磐梯山頂上より2尺回り程の黒煙が登ったという)。凡そ2丁程来たかと思うと、ズドンズドンという音がして、磐梯山より真黒の煙が真直ぐに上り、櫛ヶ峯の方と大磐梯の方より雷光の如き火が出て、豊吉が弁当などを取り纏めて逃げる時には真直ぐに黒煙が磐梯山の半ばまで下ったので、磐梯山を背にして逃げた。その有様は黒煙が先立ち土石が山のようになって押出して来て、豊吉の仕事をしていた所より6反6畝の畑を渡る前に、親に「子供を連れて大道に逃げなさい」とがなって、私は弁当等をその場に投げ捨て、子供一人を連れて逃げた。その時には黒煙の中に家の様な土石が鉄砲の丸のように、ゴウゴウという音がして勢い強く来るのがよくわかった。私は漸々逃げ伸びたが、茂吉と子供達は終に逃げきれずに死んだ。その土石は私の仕事場より4丁余押し出した。庄作もやはり猫小屋へ出た途中(27町南にて)地震がし、その3つ目の地震が揺れるや否や、ズドンズドンと音がし磐梯山を見た時に、真黒の煙が上り、ゴウウと音がするので、「磐梯山が抜けたから逃げろ逃げろ」とがなって、磐梯山を背にして逃げ帰った。鹿三郎・米三は、前日猪苗代町へ馬雇いに行き遅くなったので、川上に泊り、朝薄明けに出発、帰宅して朝飯をすますと地震が始まり、三度目の強い地震がするや否や、ドンと音がし、真黒の煙が上がった。私は出火と思ったが、村の者が「磐梯山が抜けて化け物が出て来る」と一同で言い出し、「逃げてもだめだから化け物を殺せ」と鉄砲や鎌等を持ち出し関の声を上げて、一時は村中で浮き立った。そうこうしている中、黒煙が東の方に靡いた故、その憂いも止まって、ゴウゴウと音がしてから凡そ2時間も経て、小磐梯へ向かって行った。その時は山が崩れて土石を押し出したのを見た。米三・鹿三郎の所ではみえない。

問6	土石が押し来る時、風或は灰土は降ったか	(米三・鹿三郎)風は西南の方より余程強い風で2時間計吹いた。灰に少々霧のように降った。
問7	桧原本村での風・灰	(豊吉)逃げる時は黒煙の中に入ったが、風はなかった。灰なども降ることはなかった。
問8	土石の押出した時間	よくはわからないが、3、4時間のことと思う。
問9	小磐梯山からの土石の押し出し	北へ3里8丁程、北東2里28丁程
問10	噴火後の山の鳴動	3、4日間は、ドンドンドンという音がし、時々雷の落ちるような音で、ゴウゴウと崩れる音がした。山は小磐梯の所から煙が出て霧が掛かったような按配で、皆鼠色になっていた。
問11	噴火後の地震	8月12日かなり強い揺れがあった。
問12	噴火後の変事	格別に変わったことはないが、噴火後はかなり暖かになった。
問13	噴火後1か月の暮らし	噴火後凡そ7、8日間は、又噴火するものと思い、只々憂っていた。その後、鹿三郎・米三は、水が溜るのを恐れて、水の抜ける様にしたいと思い、村中を彼是評定等をして別段家業等はしなかった。

資料3 該当地区の地籍図一覧

No.	郡名	大字名	No.	字名	作成年月	備考	法量(cm)
1	耶麻郡4	桧原				全図無し	
2			40	細野	噴火以前		53.5×72.0
3			44	雄子沢	噴火以前		51.5×59.5
4			55	秋元	噴火以前		100.5×101
5			65	小野川	噴火以前		31.5×87.0
6	耶麻郡5	猪苗代			1891	全図あり	
7	耶麻郡6	磐瀬			1882	全図あり	
8			108	見祢	不明		
9				渋谷	不明		
10			13	長坂	不明		39.5×59.5
11				川上	不明		
12	耶麻郡75	吾妻若宮		名家	不明		
13	耶麻郡76	吾妻蚕養			1882	全図あり	
14				白木城			
15				樋ノ口	不明		
16				小田			
17				小水沢	不明		
18	耶麻郡79	長瀬三郷			不明	全図あり	
19				伯父ヶ倉			

(福島県歴史資料館)

資料5 磐梯山噴火写真のデータベースについて

磐梯火山の1888(明治21)年の爆発的水蒸気噴火による活動では、山体崩壊をして甚大な被害が出た。当時の写真技術は、湿板から乾板写真に切り換わった時期で、機材の取扱いが簡便になり、撮影にも場所を選ばなくなっていた。こうした技術的な要因と、新聞が社会現象を広く知らせるようになった社会的要因から、噴火後の磐梯山には多くの人が集まり、写真を撮影した。その様子を仏人画家ジョルジュ・ビゴーは、「磐梯山周辺もはや木々も家々もなく、写真屋ばかり」と風刺した(雑誌「トバエ」36号)。

当時、我が国の高温多湿の環境下では、撮影した写真印画紙を長期間良好な状態で保存することは困難なため、画像は急速に劣化し、多くは破棄されていった。また、写真を直接印刷するのはまだ高額のため、新聞の銅板印刷や、報告書印刷のためのスケッチ原画に用いられた。しかし、印刷物になった段階で写真そのものを資料としては保存せず、廃棄した可能性が高い。これらのため、磐梯山噴火直後に撮影されたはずの多くの写真は、現存するものが意外に少ない。

最近、国立科学博物館(以下、科博と省略)及び宮内庁で、それぞれ27点と21点の多量の写真が相次いで発見された(大迫,2003; 鎌田,2004)。そこでこれらについて、磐梯山噴火記念館において収集作業をすすめていた既存の写真資料に加え、撮影地点、撮影者、撮影月日、撮影対象(噴火災害・噴火後の活動や山容)などの項目を整理し、磐梯山噴火の写真のデータベース化を図ることとした。以下に現在までの整理された内容を概略する。

撮影された写真は、重複しているものを除くと、現在までに90点ほど発見された。対象として噴火災害を撮影しているものが全体の約40%で、残りは噴火活動や噴火後の山容を扱っている。災害関係の写真は、磐梯山南側に位置する猪苗代町を撮影地点とするものが約半分を占める。対象としては被災者、救助の状況、被災家屋、地域の被災状況などである。これに対して、被害が大きかった北側の北塩原村周辺は少ない。これは、小磐梯山の山体崩壊による岩屑なだれが北側地域に堆積し、被災対象をすべて被覆したため撮影対象とならなかったからである。

噴火後の活動や山容などの撮影対象では、火口内を撮影地点としているものが多い。最近発見された科博と宮内庁の写真では、噴火後の活動や山容などが比較的多いのは、帝国大学教授関谷清景の学術調査に同行した人によって撮影された写真を収録しているためであろう。

撮影者は岩田善平(14点)と遠藤陸郎(25点)以外は、従来は特定されていなかった。今回、科博で発見された中に帝国大学に在職していた外国人教師ウィリアム・バートン(バルトン)によるものが11点あることが判明したが、残りの40点余りは記載がなく不明である。撮影時期について、記載があって判明しているもの、撮影対象などから推測すると、噴火後の数日から数か月、あるいは数年内であるが、多くは数か月以内である。画質は、噴火から116年が経過したにもかかわらず、宮内庁や科博の所蔵の写真は非常によい状態である。また、岩田善平によるもののネガが福島県立博物館に現在寄託保存されているが、状態はやや良い。

今回のデータベース化の作業で、多くの写真資料を比較検証してみた結果、裏焼きした写真が意外に多く存在することがわかった。このため、撮影地点や撮影対象が不明であったものを、裏焼きを想定して検証することが必要となった。また、従来は磐梯近傍地域の気象災害被害撮影の写真とされたものは、噴火に際して発生した爆風ないし噴火後のラハール（火山泥流、土石流）による被害写真であることがわかった。更に、宮内庁で発見されたものなどに、従来は発見されていない、爆風によって樹木がなぎ倒されている写真があることもわかった。

関谷清景は噴火後に英文報告書などを発表した。噴火関係の精妙緻なスケッチが掲載されていて、専門教科書などに引用されている。これらスケッチの原画と思われるものが、科博の写真の中に2点含まれていることがわかった。したがって、他のスケッチも撮影写真を原図としている可能性が高く、今後これらの写真が発見されることが期待される。

資料6 磐梯山噴火写真データベース及びCDの使い方について

CDの中には「撮影者別」と「方角別」の2つのフォルダーに分かれている。

1. 撮影者別

撮影者別のフォルダーをクリックすること

[岩田] [遠藤] [科博] [宮内庁] [破裂セリ] の5つのフォルダーと
[写真データ]というエクセルで構成されている。

この[写真データ]が写真のデータベースになっていて、この中のタイトルをクリックするとすべての写真を見ることができる。

[岩田]	： 当時、福島県の喜多方在住の写真師で岩田善平の撮影	14点
[遠藤]	： 当時、宮城県の仙台在住の写真師で遠藤陸郎の撮影	25点
[科博]	： 国立科学博物館で発見された写真(噴火数年後4点を含む)	28点
[宮内庁]	： 宮内庁で発見された写真	21点
[破裂セリ]	： 「磐梯山破裂セリ」(歴史春秋社発行)という写真集から	14点

2. 方角別

[hogaku.htm] をクリックすること

大磐梯を中心に90度単位で[北側]を6分類、[東側]を4分類、[南側]を1分類、
[西側]を1分類と[被害を中心]で構成している。

[北側]	(45点)：	「火口の外」「噴火口1」「噴火口2」「長峰」「秋元」「川上」
[東側]	(41点)：	「長坂」「渋谷1」「渋谷2」「見祢」
[南側]	(6点)：	「猪苗代」
[西側]	(1点)：	「会津若松」から1点
[被害を中心]	(9点)：	被害を中心に9点

方角別の写真は写真をクリックすると拡大する。

磐梯山噴火写真のデータベース (2004年10月現在)

No.	タイトル・他	撮影者	写真の所蔵	不明	撮影地点	山頂から方向	映像分類	掲載文献	備考
		岩田 善平	科学博物館						
		遠藤 陸郎	宮内庁						
		W・バートン							
		田中美代二							
		7/16~19	7/19~8/8						
		7/20~29	7/19~8/8						
		7/19~8/8	7/19~8/8						
1	噴火直後(歴史春秋社提供)			○	不明	西	噴火現象	福島民報	
2	磐梯山中/中より破裂口を望む(福島県立図書館所蔵)	2号			噴火口	北	噴火現象		
3	破裂口付近(福島県立図書館所蔵)	29号			噴火口	北	噴火現象		
4	小磐梯破裂口の正面図及び水蒸気噴出(福島県立図書館所蔵)	1号			噴火口	北	噴火現象		
5	噴火口を写す(竹内写真館所蔵)	15号			噴火口	北	噴火現象		
6	温泉埋没(歴史春秋社提供)			○	噴火口	北	災害状況		
7	磐梯山上の湯温泉埋没ノ真景(福島県立図書館所蔵)	3号			噴火口	北	災害状況		
8	磐梯山中の湯温泉埋没ノ真景及び近傍の図(福島県立図書館所蔵)	4号			噴火口	北	災害状況		
9	破裂口・土石流の跡(福島県立図書館所蔵)	31号			噴火口	北	噴火現象		
10	長峰より磐梯山破裂口を望む正面図及び様子(福島県立図書館所蔵)	28号			長峰	北	災害状況		
11	長峰より小野川の水蒸気噴出を望む(福島県立図書館所蔵)	26号			長峰	北	噴火現象		
12	長峰より秋元温泉埋没を望む(福島県立図書館所蔵)	27号			長峰	北	噴火現象		
13	噴火直後の磐梯山噴火口(歴史春秋社提供)			○	秋元	北	災害状況	小林書店	
14	秋元温泉埋没シテ火山ノセル図(福島県立図書館所蔵)	24号			秋元	北	災害状況		
15	秋元温泉埋没シテ火山ノセル図(福島県立図書館所蔵)	22号			秋元	北	災害状況		
16	秋元温泉埋没シテ火山ノセル図(福島県立図書館所蔵)	23号			秋元	北	噴火現象		
17	川上温泉あたり(歴史春秋社提供)			○	川上	北	災害状況		
18	川上温泉埋没ノ真景(福島県立図書館所蔵)	20号			川上	北	災害状況		
19	川上温泉(竹内写真館所蔵)	13号			川上	北	災害状況		
20	北方より長坂村温泉全景ヲ見ル図(福島県立図書館所蔵)	18号			長坂	東	災害状況		
21	長坂村温泉の真景(竹内写真館所蔵)	12号			長坂	東	災害状況		
22	長瀬川温泉の真景(竹内写真館所蔵)	11号			洗谷	東	災害状況		
23	長坂村ニテ死体埋没ノ図(福島県立図書館所蔵)	16号			長坂	東	災害状況		
24	洗谷村(竹内写真館所蔵)	5号			洗谷	東	災害状況		
25	雨降した洗谷村(歴史春秋社提供)			○	洗谷	東	災害状況		
26	雨降した洗谷村(国立科学博物館所蔵)		2号		洗谷	東	災害状況		
27	洗谷村温泉熱灰ノ為ニ家屋破壊人死ノ惨状ヲ見ル(福島県立図書館所蔵)	14号			洗谷	東	災害状況		
28	洗谷村温泉の惨状(福島県立図書館所蔵)	13号			洗谷	東	災害状況		
29	白木城村(竹内写真館所蔵)	7号			洗谷	東	災害状況		
30	白木城村(竹内写真館所蔵)	6号			洗谷	東	災害状況		
31	白木城小学校温泉ノ為ニ破壊ノ図(福島県立図書館)	10号			洗谷	東	災害状況		
32	白木城より磐梯山を望む(福島県立図書館所蔵)	11号			洗谷	東	災害状況		
33	父ヶ倉の温泉(歴史春秋社提供)				見掛	東	災害状況		
34	見掛村大石(遠藤写真館所蔵)	2号			見掛	東	災害状況		
35	見掛村より温泉埋没ノ真景ヲ望ム(福島県立図書館所蔵)	7号			見掛	東	災害状況		
36	見掛村温泉(竹内写真館所蔵)	1号			見掛	東	災害状況		
37	見掛村(竹内写真館所蔵)	3号			見掛	東	災害状況		
38	見掛村(竹内写真館所蔵)	4号			見掛	東	災害状況		
39	磐梯山麓開戸村より望む(福島県立図書館所蔵)	32号			猪苗代	東	噴火現象		
40	猪苗代町より磐梯山を望む(福島県立図書館所蔵)	6号			猪苗代	東	噴火現象		
41	磐梯山麓より磐梯山を望む(福島県立図書館所蔵)	30号			猪苗代	東	噴火現象		
42	死傷者の惨状(歴史春秋社提供)			○	洗谷	東	災害状況	日本赤十字	
43	長瀬川死体(竹内写真館所蔵)	8号			洗谷	東	災害状況		
44	長瀬川死体(竹内写真館所蔵)	10号			洗谷	東	災害状況		
45	長坂村死体温泉ノ真景(福島県立図書館所蔵)	17号			洗谷	東	災害状況		
46	長瀬川死体(竹内写真館所蔵)	9号			洗谷	東	災害状況		
47	仮病院にて(歴史春秋社提供)			○	猪苗代	東	災害状況	磐梯紀行19	
48	赤十字社員の救護活動(歴史春秋社提供)				猪苗代	東	災害状況	磐梯紀行18	
49	犠牲者永眠の地(歴史春秋社提供)			○	長坂	東	災害状況	日本赤十字	
50	磐梯山麓温泉の人々(歴史春秋社提供)			○	噴火口	北	噴火現象		
51	磐梯山噴火口・噴煙(国立科学博物館所蔵)		18号		噴火口	北	噴火現象		
52	火口原より見た大磐梯山(国立科学博物館)		24号		噴火口	北	噴火現象		
53	瓦礫を積んで洗谷村を襲う(国立科学博物館)		3号		洗谷	東	災害状況	関谷スケッチ	
54	南方より長坂村(福島県立図書館所蔵)	19号			長坂	東	災害状況		
55	磐梯山中ノ湯(国立科学博物館所蔵)		1号		噴火口	北	災害状況		
56	見掛温泉(国立科学博物館所蔵)		6号		洗谷	東	災害状況		
57	見掛温泉(国立科学博物館所蔵)		7号	53号(宮内庁書陵部所蔵)	見掛	東	災害状況	明治の日本3	宮内・裏焼き
58	見掛村へ土石流出(国立科学博物館所蔵)		8号		見掛	東	災害状況		
59	無蔵(常陸守の巨大噴煙)(国立科学博物館所蔵)		9号	58号(宮内庁書陵部所蔵)	洗谷	東	災害状況	明治の日本5	宮内・部分焼き
60	中の湯より噴口を望む(国立科学博物館所蔵)		10号		噴火口	北	噴火現象		
61	沼ノ平(国立科学博物館所蔵)		11号	60号(宮内庁書陵部所蔵)	噴火口	北	噴火現象		宮内・部分焼き
62	蒸気噴出(国立科学博物館所蔵)		12号	67号(宮内庁書陵部所蔵)	噴火口	北	噴火現象	明治の日本7	宮内・部分焼き
63	無蔵(国立科学博物館所蔵)		13号		見掛	E	噴火現象		
64	噴口内土石流出(国立科学博物館所蔵)		14号		噴火口	北	噴火現象		
65	噴火口遠望(国立科学博物館所蔵)		15号		噴火口	北	噴火現象		
66	蒸気噴出(国立科学博物館所蔵)		16号		噴火口	北	噴火現象		
67	蒸気噴出(国立科学博物館所蔵)		17号	68号(宮内庁書陵部所蔵)	噴火口	北	噴火現象	明治の日本8	宮内・部分焼き
68	蒸気噴出土石流出(国立科学博物館所蔵)		19号	69号(宮内庁書陵部所蔵)	噴火口	北	噴火現象	明治の日本9	宮内・裏焼き
69	噴口遠望(国立科学博物館所蔵)		20号		秋元	北	噴火現象		関谷スケッチ
70	川上土石(国立科学博物館所蔵)		21号		川上	北	噴火現象		
71	磐梯山中ノ湯(国立科学博物館所蔵)		23号	66号(宮内庁書陵部所蔵)	噴火口	北	災害状況		宮内・裏焼き
72	噴火口断崖(国立科学博物館所蔵)		25号		噴火口	北	噴火現象		
73	無蔵(国立科学博物館所蔵)		26号		不明	不明	噴火現象		
74	無蔵(国立科学博物館所蔵)		27号		不明	不明	噴火現象		
75	猪苗代町より大磐梯を望む(宮内庁書陵部所蔵)			51号	見掛	東	噴火現象		
76	見掛村温泉(宮内庁書陵部所蔵)			52号	見掛	東	災害状況	明治の日本2	
77	見掛村温泉(宮内庁書陵部所蔵)			53号	見掛	東	災害状況		
78	見掛山上より見掛村を望む(宮内庁書陵部所蔵)			54号	見掛	東	噴火現象		
79	見掛山上より洗谷村を望む(宮内庁書陵部所蔵)			55号	見掛	東	噴火現象		
80	風呂洗谷村温泉を望む(宮内庁書陵部所蔵)			56号	洗谷	東	災害状況	明治の日本4	
81	風呂洗谷村温泉を望む(宮内庁書陵部所蔵)			57号	洗谷	東	噴火現象		
82	風呂洗谷村温泉を望む(宮内庁書陵部所蔵)			58号	洗谷	東	噴火現象		
83	松原野村温泉を望む(宮内庁書陵部所蔵)			59号	噴火口	北	噴火現象		
84	小磐梯山下宇治ノ平(宮内庁書陵部所蔵)			60号	噴火口	北	噴火現象		
85	磐梯山中の湯温泉埋没(宮内庁書陵部所蔵)			61号	噴火口	北	噴火現象		
86	丸森山樹林破壊 其の1(宮内庁書陵部所蔵)			62号	噴火口	北	噴火現象		
87	丸森山樹林破壊 其の2(宮内庁書陵部所蔵)			63号	噴火口	北	噴火現象		
88	磐梯上の湯温泉埋没(宮内庁書陵部所蔵)			64号	噴火口	北	噴火現象	明治の日本6	
89	小磐梯山破裂跡の断崖(宮内庁書陵部所蔵)			65号	噴火口	北	噴火現象		
90	小磐梯山大武ノ岩石樹木壊断跡ノ図(宮内庁書陵部所蔵)			66号	噴火口	北	噴火現象		
91	小磐梯山破裂ノ噴火口ヨリ蒸気ヲ噴出スル様(宮内庁書陵部所蔵)			67号	噴火口	北	噴火現象		
92	小磐梯山断崖大磐梯山ノ噴火口(宮内庁書陵部所蔵)			68号	噴火口	北	噴火現象		
93	小磐梯山麓温泉流出ノ様(宮内庁書陵部所蔵)			69号	噴火口	北	噴火現象		
94	猪苗代町仮病院(宮内庁書陵部所蔵)			70号	猪苗代	東	災害状況	明治日本10	
95	無蔵(中ノ湯付近)(宮内庁書陵部所蔵)			71号	噴火口	北	噴火現象		
96	無蔵(中ノ湯付近)国立科学博物館所蔵		○		噴火口	北			(噴火数年後)
97	無蔵(中ノ湯付近)国立科学博物館所蔵		○		噴火口	北			(噴火数年後)
98	無蔵(中ノ湯付近)国立科学博物館所蔵		○		噴火口	北			(噴火数年後)
99	無蔵(中ノ湯付近)国立科学博物館所蔵		○		噴火口	北			(噴火数年後)

岩田 善平 (7月16日 ~ 7月19日)	14
遠藤 陸郎 (7月20日 ~ 7月29日)	25
ウィリアム・バートン (7月19日 ~ 8月8日)	11
田中美代二 (7月19日 ~ 8月8日) 科博	6
撮影者不明 (7月19日 ~ 8月8日) 科博	6
撮影者不明 (数ヶ月~数年後) 科博	4
宮内庁 (撮影時期不明) 撮影者不明	21
出所未確定	12
	99

資料 15 関連情報

以下のホームページや施設などで、本報告書を理解するうえで役立つ知識を得ることができます。

- 日本火山学会のホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/index.html>
火山を研究する学者からなる学会です。火山の専門家への質問コーナーもあります。
- 日本地質学会のホームページ <http://www.geosociety.jp/>
地質学を研究する学者からなる学会です。
- 気象庁のホームページ <http://www.jma.go.jp/jma/menu/knowledge.html>
火山の噴火や地震を始めとする自然現象について解説しています。
- 仙台管区気象台 <http://www.sendai-jma.go.jp/>
磐梯山を始め東北地方の火山を監視しています。
- 東北大学大学院理学研究科附属 地震・噴火予知研究観測センター
<http://www.aob.geophys.tohoku.ac.jp/>
磐梯山を始め東北地方の火山を研究しています。
- 磐梯山噴火記念館 <http://www.bandaimuse.jp/>
磐梯山に関するさまざまな情報を発信しています。
- 福島県歴史資料館 <http://www.history-archives.fks.ed.jp/>
1888(明治21)年の磐梯山の噴火に関わる福島県庁文書を所蔵しています。
- 福島県立博物館 <http://www.general-museum.fks.ed.jp/>
磐梯山を始め福島県内の自然や歴史を紹介しています。
- 磐梯山慧日寺資料館
<http://www.f.do-fukushima.or.jp/bandai/bandaisan-ga-lbandai/rekishi/rekishi-5shiryoukan-1.html>
信仰としての磐梯山など歴史的な展示をしています。
- 地質標本館 <http://www.gsj.jp/Muse/>
磐梯山を始め日本中の火山を紹介しています。
- 「火山の世界」 <http://volcano.und.nodak.edu/>
ノースダコタ大学が作成しているページで世界中の火山を紹介しています。